

津崎俊介「小学生が戦争を考える - 戦後 70 年の節目に」

志賀紗雪

1. 概要紹介

今日の日本では、領土問題や慰安婦問題、米軍基地問題など 70 年前の戦争に起因する問題が多く残っている。しかし、初めて戦争について学習する子供たちにとって戦争ははるか昔に感じてしまうのではないだろうか。このことから以下に留意して授業を構成する。

・初めて戦争を学習する子供たちの誰にとってもわかりやすく、かつ問題意識を持てるような資料を使うこと。

・アジアの近隣諸国を巻き込んだ問題について、事なかれ主義で終わらせないこと。

では、どのような授業が行われたのか。紹介しよう。

○授業の実践記録（8 時間構成）

1 次：事象観察・問題構成（1 時間）

① 原爆投下前の原爆ドームの写真

② 日本が占領した海南島の絵

③ 学校園での田植えの写真

① ～③を見て、気づいたことを話し合う。

④ 1943 年までの日本の東アジア圏における勢力図を見て、日本が軍事的に力を強めていったことを確認する。

⑤ 原爆投下後の原爆ドームの写真と、1945 年の終戦後の日本の勢力図を見て 15 年間で何があったのだろうという疑問から学習問題を立てる。

1931 年から日本が経験した 15 年の戦争は、どのようなものだったのだろうか。

2 次：自力解決（4 時間）

- ①教科書、資料集、インターネットを使って調べ、まとめる。
- ② 地域に住む被爆者とソプラノ歌手を学校に招き、講話を聞いたり戦争に関する歌を歌ったりする。
- ③ 祖父母など戦争を知っている人にインタビューを行う。

3次：比較・整序（2時間）

児童が調べたことなどをもとに話し合い、一人ひとりがまとめる。

4次：発展（1時間）

広島市の平和記念公園の石碑の写真「安らかに眠ってください 過ちは繰り返させぬから」を見て、「何が」過ちだったのかを考える。

2. 感想

この実践記録を読んで思ったことは、これは道徳や総合的な学習の授業とどう違うのだろうかということだ。実践記録には、3次でどのようなまとめをされたのかの記述がなかった。しかし、学習課題に対する自力解決の方法を見ると、「戦争は悲惨なものだった」「もう2度とあってはならない」というまとめになりかねないのではないだろうか。津崎は、「道徳の教科化」対抗して、社会科授業での平和学習力を入れていきたいと述べている。そうだとすれば、社会科で平和学習を行う意義や、社会科としての独自性を維持する平和学習を考える必要があるだろう。